

## 11. 痴呆性老人徘徊感知機器

痴呆性老人徘徊感知機器は、痴呆性高齢者が自宅や自室などから一人で外へ出ようとすることを家族や介護者に知らせる福祉用具である。痴呆性老人徘徊感知機器には、小型の機器を携帯する携帯装置タイプと、特定の場所を人が通過することを感知するエリア感知タイプがある。

### 使用が想定しにくい状態像

移動：全介助

コミュニケーション等に関連する項目（視力、聴力を除く）：**以下の全てに該当**  
意思の伝達：調査対象者が意志を他者に伝達できる  
介護者の指示への反応：介護者の指示が通じる  
記憶・理解（全ての項目について）：できる

痴呆の周辺症状：ない

【考え方】

痴呆性老人徘徊感知機器は、痴呆性高齢者が自宅や自室などから一人で外へ出るのを家族や介護者に知らせる福祉用具である。したがって、移動が全介助である場合や痴呆の症状がない場合の使用は想定しにくい。

### 使用が想定しにくい要介護度

要支援

要介護5

痴呆性老人徘徊感知機器は、痴呆性高齢者が自宅や自室などから一人で外へ出るのを家族や介護者に知らせる福祉用具である。したがって、痴呆の症状がほとんどないと思われる「要支援」、移動が全介助の場合が多い「要介護5」での使用は想定しにくい。

※ 個別の利用者の生活状況や解決すべき課題等によっては、使用が考えられる場合もある。